



—東北生産性本部—

第37回仙台シンポジウム12月例会開催

テーマ「どうなる日本の政治と経済」



■ 12月例会（12月2日開催）

★講師 読売新聞特別編集委員 橋本 五郎 氏（秋田県出身）

第37回仙台シンポジウム12月例会は、読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏を迎え、73名の皆様の参加を得て開催いたしました。

講演では、『今日、衆議院選挙が公示され選挙戦がスタートした。安倍総理は、もともと消費税引上の延期はやりたくなかったが、党内にも反対派もおり、消費税延期と平成29年4月には確実に10%へ消費税を引き上げること、そして2年間やってきた政策について国民に審判を問うとして衆議院を解散した。』

これに対して野党は、「大義が無い」「大義が無いから投票率が下がる」と言っており、これは筋道としておかしい。

政権与党の政策がおかしければ、野党から解散要求すべきこと。その解散を嫌だと言うのは道理にあわなない、意味がわからない。

衆議院の解散は、総理の専権事項であって、総理がやる必要があると判断したタイミングにやれば良いこと。国民にとっては、政治を直接、選べるチャンスであり、しっかりと判断し、投票すべきである。

安倍総理は、これまでアベノミクスとして、デフレ退治を断固として取組んできた。これまでの敵は日銀と財務省であり、日銀総裁も交代させてきた。

しかし、アベノミクスの成長戦略だけは、対戦相手も多く、いろいろなことを考えなければならずなかなか難しい。

一方、外交では、中国・韓国・ロシアとの領土問題がある。これを解決するには、「戦争」か「限りなく仲良くなるか同じ国になる」ことしかない。しかし、どちらもできるわけがない。つまりは、しっかりと主張しつつも、それぞれの国としっかりと関係を保っていくことが必要であり、これが政治である。

東日本大震災では、政治としてのリーダーシップがどこにあったのか？リーダーが見えなかった。私は、震災後、国会を仙台でやれと主張した。被災地復興や観光復活に向けた効果、さらに東京一点集中への危機管理にも繋がる。

私の安部総理への不満は、地方に対する愛情が無いこと。やっと成長戦略の中で、地方が出てきた。東日本大震災の復興という言葉はでていたが、もっと早く出せなかったのか？

安部総理は、東京生まれ、東京育ち。良い悪いはあるものの田中角栄は新潟県出身で、雪国の母の姿を思ったのだろう「日本改造論」を、香川県出身で田園風景を思い描いた大平正芳は「田園都市構想」を打ち上げた。安部総理は「美しい国」と言っているが風景が見えてこない。

デフレ対策は必ずやらなければならないもの。その他さまざまな施策をやろうとすれば、陰で鳴く人が必ずでてくる。常にそのようなところに心を配り、人を大切にする思いが大事である。国全体で地方をどうするのか？

私は、故郷の秋田県の田舎に、なにか恩返しをしたいと思い、図書2万冊を寄贈し、地元のボランティアの協力を得て、『橋本五郎文庫』をつくった。かえって迷惑の声もあったが、地元の方々がさまざまな企画を行いながら運営しており、年々来訪者も増加し、地域の方々が元気になっており、大変うれしく思っている。

地方に対して何ができるのか？地方創生とはなにか？ 地方のことをどれだけ思えるかである。地方には一人で暮らす老人も多い。その思いを感じることができるのか？

日本の政治に、なにがかけているのか？ ・ ・それは「心」が欠けている。

「美しい国」とは、そのような心を取り戻して考えることが必要である。

今日は、選挙結果を占うような話はあえてせず、私の思いを話させてもらった。』
と時勢を踏まえながらも、政治と地方に対する熱い思いを話されました。

以上、大変有意義なご講演をいただき、参加者の皆さまを含めましてご協力に衷心より感謝申しあげます。

■「2015年新年労使交流会」

- ・期 日 2015年1月13日(火) 15:30～講演会 17:00～賀詞交歓会
- ・会 場 江陽グランドホテル
- ・参加費 12,000円/1名につき(消費税込)
- ・講演会テーマ

「2015年 世界の構造転換と日本の進路」

～日本経済展望及び取り巻くエネルギー・環境問題への視座～

講 師 一般財団法人日本総合研究所理事長

㈱三井物産戦略研究所会長

寺 島 実 郎 氏

※参加ご希望の方は、東北生産性本部(Tel 022-261-0411)までご連絡ください。